

泥にまみれて勝利をつかめ！

秋と言えば、お芋の美味しい季節です。私は小学生の頃、地元の農協が主催する芋ほり大会に参加するのが毎年の楽しみでした。長靴を履き、軍手を身に付け、いよいよ収穫です。

しかし、いざ土を掘り起こし、伸びるツルを辿って必死になって泥を掻き分けてみると途中で切れてしまったり、あまりの大きさに土の中から掘り出せなかったりと思ったよりも大変な作業でした。泥と言えば、顔に泥を塗る、泥をかぶる、泥試合、雲泥の差など、良い印象をもつ人は少ないかもしれませんが、情けなく、あまり格好も良くないけども、目標に向かって地道に努力することを泥臭くなどと表現しますから、決して悪いイメージだけではないのかと思います。

だからなのでしょうか、子供心に、たかが芋ほりと言えども、収穫する喜び以上の達成感を感じたのは、やっとの思いで掘り出したお芋の数や大きさより、泥だらけとなった自分の姿が誇らしく思えたからなのかも知れません。

今年のプロ野球ペナントレースのこと、4年振りにジャイアンツが優勝し、阿部監督が胴上げされました。その数日前のことです。ふと新聞を見ると、優勝を目前にした監督のインタビューで、「今日は泥まみれになってやるぞ！」と選手を鼓舞したコメントがありました。監督の言う「泥まみれ」とはまさに勝つことへの執着の表れであり、貪欲に試合に臨む決意であったに違いありません。

さて、秋の気配を感じないほど暑さが厳しいある日曜日のこと、本校の女子バレーボール部の練習試合の応援に出掛けました。皆さんご存知のとおり、バレーボールは、レシーブ、トス、アタックの三段攻撃をいかに華麗に決めるかが勝負のカギです。なぜなら、選手の意志通りに操られていく見事なボールコントロールと、高い位置から繰り出される強烈なスパイクで得点が決まることで、チームに勢いが増していくからです。一方、このような基本的な戦法もあれば、相手のスパイクを拾っては繋げ、また拾っては繋げと、最後まで諦めずにボールへ食らいつく、勝利への執着が相手のミス誘って攻撃へと転じる粘りのプレーもあります。選手の泥臭いと言われようとも貪欲に白球を追いかけるひた向きな姿は、また違ったバレーボールという競技の醍醐味とも言えます。

当日の試合では、公式戦ではないためか、緊張から解放された選手がセットを重ねる度にエンジン全開となり、のびのびと試合に臨んでいました。

ふと、選手の背中を見ると、鰈（かれい）の文字が目飛び込んできます。鰈とは、御存知のとおり、普段は海の底に生息している平べったい魚です。なぜ鰈なのか？私は選手に尋ねると、泥臭く、泥塗れになっても勝ちたい勝利への拘りだそうで、スポーツアニメの有名なワンシーンからヒントを得たとのことでした。なるほど、暗い海の深い泥の中に這いつくばり、いつでも餌（得点）を狙って、これぞ！（チャンス）と思う時に逃さず仕留めている魚の姿は、勝利を信じてじっと耐えている選手の気持ちではないかとイメージすることができました。また、選手のユーモアな発想の中にも、この一文字に込められた本気を感じずにはいませんでした。

この言葉がとても私の心に響いたのか、観戦中も力強いスパイクや完璧なブロックなどで得点が決まるよりも、最後まで諦めずにボールを拾い続け、相手のミス誘い出すことで得点することに本校のチームらしきが出ていると思いました。応援にも熱が入る中、気が付くと私は深い深い海の中にいるような錯覚に陥りました。選手が届かないボールに這いつくばるようにして飛び込むと、その衝撃で濛々と舞い上がる泥が見え、学びの匂いとなってチームの勢いを演出していました。

令和6年10月

